

寒波の米国に緊急輸出 石油製品、天然ガスなど

カナダ・エネルギー庁は、記録的な寒波で燃料不足におちいった米国に対し、一月中旬から二月初めにかけて天然ガス二百三十七億立方フィート、石油製品百五十六万五千バレル、プロパン三百七十八万九千バレルの緊急輸出を認可した。

まず、一月十九日には、ミシガン州デトロイトのデトロイト・エジソン社へ燃料用重油五万バレル、オハイオ州、ニューヨーク州、首都ワシントンなどの広い地域をサービス・エリアとしているコロロンビア・ガス・システムに天然ガス百五十億バレルを供給することになった。一月二十一日には、ニューヨーク市のアジアティック・オイル社に対する半留油二十一万バレルの輸出、二十六日にはさらに十七万バレルの輸出が許可された。また同二十八日には、ペンシルバニア州のコロンビア・ガス会社へLPG（液化ガス）二百四十万米ガロン、ユタ州ソールト・レイク市のノースウエスト・パイプライン社へ天然ガス一日当たり五千万立方フィートなどの輸送が認可された。そのほか、二月に入って、ノースウエスト・パイプライン社へ天然ガス十二億立方フィート、ナイヤガラ・モーター発電会社へ十三億バレル、モンタナ発電会社へ三十億バレル、ペンシルバニア州へ六億バレルの緊急輸出が認可されている。

二十人に一人がアメリカ人 昨年の海外からの訪問者

昨年カナダを訪問したアメリカ人は、一昨年より六・八パーセント減

の三千二百二十万人にとどまった。これは、アメリカ人の大半が、建国二百周年を迎えて国外に出なかったことが一因と思われる。アメリカ以外からの入国者は、モントリオール・オリンピックもあって、一昨年より一八・八パーセント増の百六十万人に達した。それでも、海外からの訪問者はアメリカ人が二十人に一人と、圧倒的に多い。

ワシントンでカナダ文化討論会 美術品や実験映画なども紹介

米国の首都ワシントンで、カナダの文学、演劇、映画、ラジオ、テレビ、出版および視覚芸術に関するパネル討論会・講演会が開かれた。カナダから批評家のノースロップ・フライ氏、アンドレ・フォルナエ文化省次官、作家のロバートソン・テイビーズ氏、ジャーナリストのロバート・フルフォード氏などが参加し、実験映画やアニメ映画、カナダの芸術家に関する一連の映画、グループ・オブ・セブンの作品を含むカナダの美術品なども展示あるいは上映されたこのシンポジウムは、一月二十四日から四月六日まで続いた大々的なもので、米国のカナダ研究協会が主催し、カナダの人文科学基金が外務省文化局の協力を得て資金的に後援した。

米加、パイプライン協定に調印 両国間の石油・ガス輸送を円滑に

カナダと米国は、一月末、両国間の石油と天然ガスの輸送を支障なく行うための協定に調印した。これは、それぞれの領内を通過して石油または天然ガスを輸送するパイプラインについて、

非介入・非差別の制度を確認するもの。カナダ国内を通るアメリカの輸送管も、税制上、カナダの輸送管と同等の扱いを受けることになる。

現在、カナダでは、大量の天然ガスの埋蔵が発見された北極圏から、カナダおよび米国の消費地へこれを輸送するためのパイプライン建設が計画されている。また、推定二十六兆立方フィートの天然ガス埋蔵が確認されているアラスカから、カナダ国内を通って米国へパイプラインを建設する案もある。なお、昨年、州間パイプラインがモントリオールまで延長された結果、西部カナダから直接モントリオール市場へ石油が輸送されることになった（本紙昨年七月号）が、オタワ以東のカナダで消費される石油の大部分は米国メイン州ポートランドからパイプラインで、また天然ガスの大半も米国内を通るパイプラインで輸送されている。

囚人交換条約に調印

米加両国は、このほど、お互いの国に収容されている囚人を交換する条約に調印した。これは、それぞれの国で服役、仮釈放または執行猶予中の犯罪者（移民法もしくは軍法違反を除く）に関し、自国への移送を認めようというものの。議会の承認をへて正式に発効するが、実施されれば「画期的なものであり、他の国々との同様な条約の手本になる」（フランシス・フォックス検察庁長官）ものと期待されている。現在、米国の刑務所で服役しているカナダ人は九十人、カナダで服役しているアメリカ人は百七十四人。

レベック首相、「共同市場」を提案 「ケベックの独立は不可避」

ケベック州のレベック首相は、一月末、ニューヨーク経済クラブで講演、ケベックの独立は不可避であり、五年以内に州民投票を行って決定する、と述べた。

同首相は、ケベックには二百年前のアメリカにおける十三種民地と同じ独立の必然性があり、当時と状況も似ているとして、「ケベックとカナダに関心をもつすべての人々が問うべき重要な問題は、ケベックが独立するかどうか、あるいはいつ独立するか、ということではなく、時がきてケベックの人々がいかにして自らの政治問題を完全に担当できるようになるか、ということである」と語った。これについては、ケベックはこれまでも「静かな革命」を民主的に実施してきており、近い将来、徐々に「静かな独立」を達成していきたい、と述べた。

政治主権を徐々に、そして平和的に実



レベック首相

現するという計画とともに、レベック首相はカナダとの「経済連合」を提案した。これは、ケベックは独立後もカナダと相互に依存しつつ、互恵的経済関係を続けたいというもので、同首相としては欧州経済共同体のような、共通関税、資本や労働の自由移動などを基盤とする共同市場的なものを構想している、としている。

表紙の写真 カナダと米国は兄弟のようだと言われる。太平洋沿岸から大西洋沿岸へ、そして太平洋沿岸を北上して北極海へ伸びる九千キロ近くの国境をほさず、二つの国民は牧場を、川を、山を、空を、そして家さえもわから合ってきた。本号は、トルドー首相の訪米を機会に、カナダと米国の「国境」を特集してみた。